植物の学名

植物の名前にはいろいろあります．例えば斜里なら「すっかんこ」など昔から使われている方言での名前は地方名，「桜」など総称として使われている一般名，園芸店の店先では「ラヴェンダー」などの流通名も使われます．図鑑などで「シレトコスミレ」とカタカナで書かれているのは和名（標準和名）といって日本でのみ使われる正式な名前です．ちなみに最初に挙げた地方名は，和名ではヒメスイバと呼んでいます．

そして「Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.」といったように２つ以上のラテン語の単語，そしてその植物の名前をつけた命名者がセットになったものを学名（この例はカツラ）といい，植物の正式名称です．

一般には馴染みの薄い学名ですが，これを少しでも知っていれば植物への理解は確実に深まります．また学名ならどんな国の人にも通じるのも強みです．今回は学名について一般の植物図鑑で目に触れる範囲で解説してみようと思います．

植物の学名の多くは属名と種小名，そして命名者名の3 つからなっており，属名と種小名はちょうど名字と名前の関係と同じようになっています．属とはいくつかの種をあつめた大きなまとまりで，さらにいくつかの属をあつめたのが「科」です．

先ほどの例でいくと，カツラの学名Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.は「Cercidiphyllumという属の新種をjaponicumという種名でシーボルトとツッカリーニが命名した」と宣言しているのです（etは&と書くこともあり英語のandにあたります）．属名と命名者名は大文字で始めるのが決まりです．また最近の図鑑では命名者名を省略した形もよくみられます．

ここで学名の発音の仕方についても触れておきましょう．実は学名の読み方に決まった約束はありません．読む人によって読み方が全然違うことは日本国内でも珍しくはありません．例えばAcer（日本語でいうカエデ属）なら「アケル」「エイサー」「アセア」など様々です．そのため，新聞や公文書でときどき見られるように学名をカタカナ表記するのは誤解を生みかねず大変危険です．学名はあくまでラテン語で「書かれた」ものなのです．

和名ではエゾヤマザクラとエゾコザクラの様にお互いに相当離れた種類におなじ「サクラ」という言葉が含まれることがあり，同じ仲間なのかと誤解を生みます．しかし学名で見ればそれぞれの属はCerasusとPrimulaで，互いに離れた種であることは明らかです．同様に知床の高山植物のメアカンフスマと本州鳥海山でみられるチョウカイフスマは隔離分布する同種の別変種で実際よく似ていますが，それも和名からは想像できません．

学名を使う大きなメリットのひとつに，種より小さな分類群の表現があります．一般の図鑑で使用されるものでは「亜種」「変種」「品種」といったものがそれにあたります．属の下に種があるのと同様に，種の下に亜種subspecies（subsp.またはssp.と略，以下同じ），その下に変種varietas（var.またはv.），そして最後に品種forma（form.またはf.）です．それぞれ亜種名の次には亜種の命名者が，変種名の次には変種の命名者が続きます．知床で見られるレブンコザクラの学名はPrimura farinosa L. ssp. modesta (Bisset et Moore) Pax var. matsumurae (Petitom.) Yamazaki という長いものになってしまいます．ちなみにかっこの中にある命名者は，その人がつけた名前がかっこの後ろの命名者によって変更されたことを意味します．

このように学名を丹念に読みとっていけば種の位置づけとその歴史的変遷をたどることができます．当然おなじ植物に対しても研究者の考えによって使われる学名は様々です．植物の和名を調べる際にはぜひついでに学名にも目を通してください．図鑑の隅っこに書かれている小さな字には意外な発見がたくさんつまっています．（内田暁友）

～事務局より～

今回は、会費納入依頼・総会議案・会員サービスの絵はがきを同封しました。会費納入された方には来月号で会員証をお届けする予定です、お楽しみに！

発行　斜里町立知床博物館協力会　改2004.5.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49　斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/